

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2017年4月）

ピックアップトラックの輸出不振と国内での販売シェアの低下で、タイ自動車ビジネスの収益性は悪化方向。

主任研究員

深尾 三四郎

045-225-2375

fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 4月国内生産台数（季調値）は前月比1.2%増の年率188.6万台。前年実績を下回り低空飛行が続く。
- 同月輸出台数は同6.0%増の年率108.0万台と増加したが、減少トレンドに変化なし。
- 内需回復は続く。しかし、ピックアップトラックの国内販売には頭打ち感があり、販売シェアは低下。

ピックアップトラックの国内販売シェアは、新車投入が相次ぐ乗用車に食われるかたちで低下している。

タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：以下、FTI）が発表した2017年4月の四輪車総生産台数は、前年同月比12.9%減と3か月連続で前年割れとなったが、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）は前月比1.2%増の188.6万台と2か月連続で増加した。もっとも、足元のSAARは昨年実績194万台を下回る状況で低空飛行が続いている（図表1）。

輸出台数の減少トレンドに変化は見られない。4月の総輸出台数は前年同月比14.4%減と10か月連続で前年割れとなった。SAARは前月比6.0%増の108.0万台と増加したが、6か月連続で120万台を下回る水準となっている（図表2）。中近東での景気悪化が大きな逆風となっている。3か月後方移動平均値でみたトレンドは下向いたままで、底が見えない深刻な状況が依然として続いている。

一方、内需の増加トレンドは続いている。4月の国内販売台数は前年同月比15.1%増と4か月連続の2桁%増となった。SAARは前月比5.0%減の85.7万台と減少したが、3か月後方移動平均値で見たトレンドは増加基調が続いている（図表3）。4月の消費者信頼感指数は昨年12月から5か月連続の上昇となった。農産物市況の回復に伴う消費ムードの改善が続いており、これが内需回復の下支えとなっている（図表4）。国内販売台数の17年1～4月平均SAARは86万台となっており、FTIの17年見通しである80万台を超えるレベルで、今のところ堅調に推移している。

図表5は主要セグメント別の国内販売台数の推移を示している。3か月移動平均値でみる販売トレンドに注目すると、新モデルが相次いだ乗用車は増加基調が続いている一方で、ピックアップトラック（ピックアップトラックをベースとしたSUVであるPPVを含む）の販売には頭打ち感が出ており、また、貨物車・バスの販売は浮揚感に欠ける展開が続いている。なお、17年1～4月累計の乗用車の販売構成比は前年同期間比5.4%ポイントアップの38.7%と大きく上昇した一方、ピックアップトラックは同3.4%ポイントダウンの50.3%と、ピックアップトラックの販売シェアは乗用車に食われるかたちで低下している。

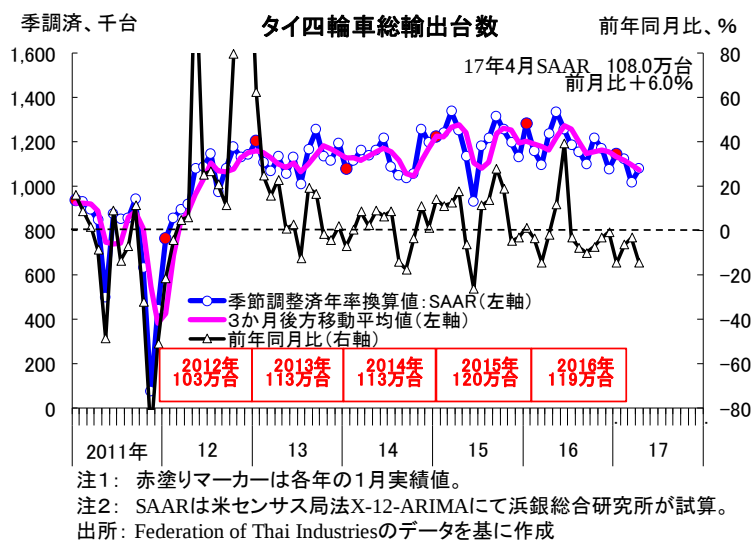
タイ自動車市場では、輸出の大幅な減少を国内販売の増加で吸収するかたちで、自動車メーカーが国内生産の底割れを食い止めるという神経質な展開が続いていると言える。16年度決算を発表した多くの関連企業から、タイ国内市場の回復に期待する声が多く聞かれたが、輸出低迷が深刻なため楽観は禁物だ。加えて、高収益なピックアップトラックの輸出が低迷している上、国内市場では同セグメントの販売モメンタムが低収益な乗用車に負けており、タイ自動車市場の収益性が悪化方向にあるということにも要注意である。

図表1 国内生産は年率190万台割れが続く
タイ四輪車総生産台数

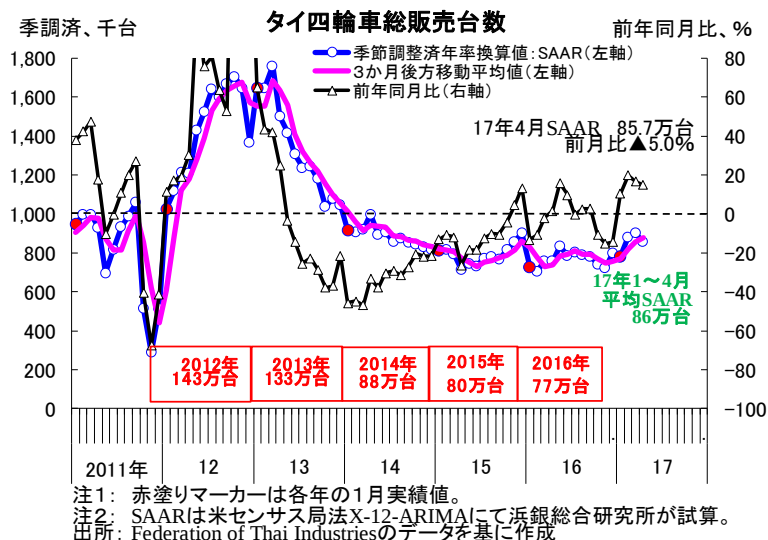


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

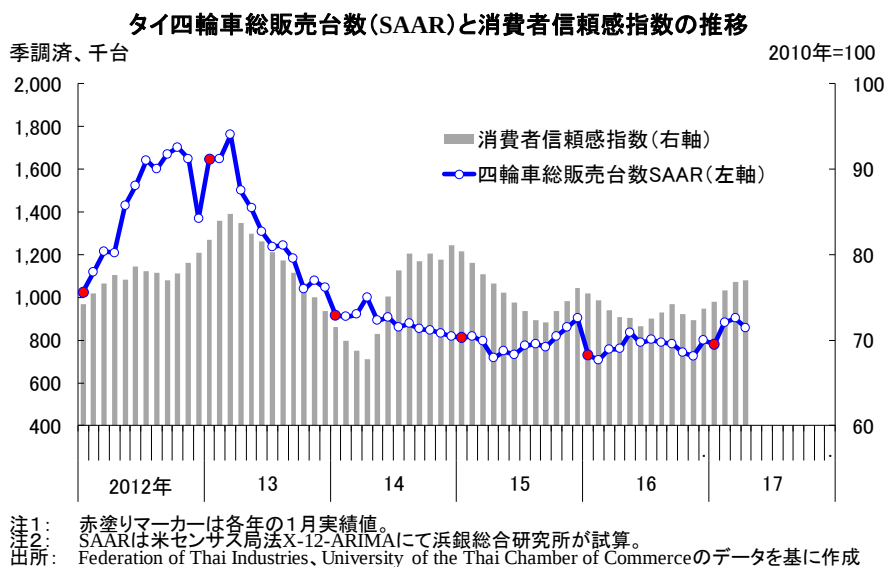
図表2 輸出台数（SAAR）の下落トレンド続く



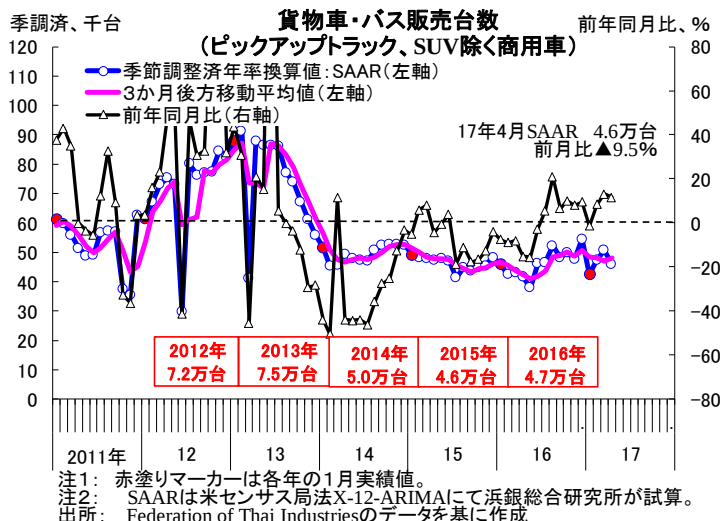
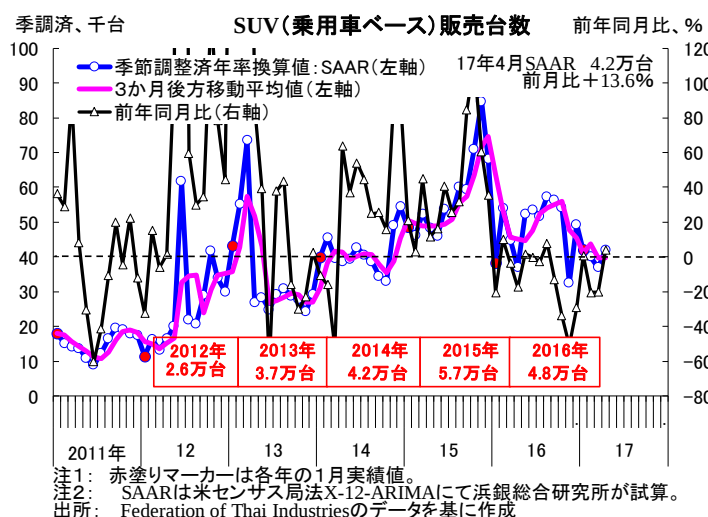
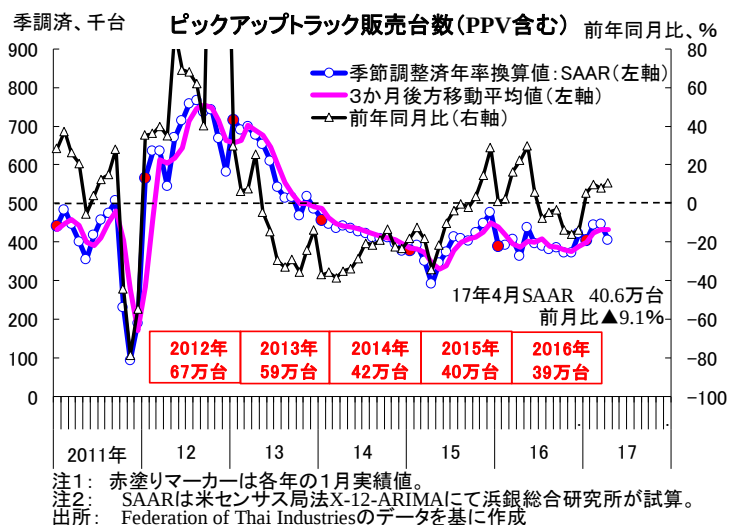
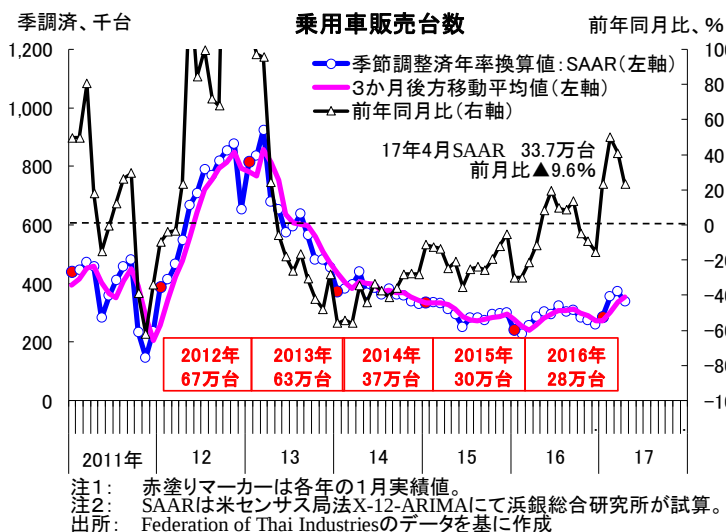
図表3 国内販売（SAAR）の増加トレンドは続く



図表4 消費ムードの改善が国内販売回復の下支えに



図表5 セグメント別国内販売の推移：ピックアップトラック販売に頭打ち感



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。